

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業
完 了 報 告 書

実践校 あま市立伊福小学校

所在地 あま市七宝町伊福河原 28 番地

校長名 田 邊 孝 博

児童・生徒数 370 名

1 本事業の趣旨・目標

本校では、一昨年より道德教育の研究を進めてきた。他者との関わりを軸とした教材の発掘や、読み語りとセンテンスカードでの資料の提示などを研究し授業実践を積み重ねてきた。その中で、活発に意見交流ができるようになり、発言する意欲や聞く力が育つなどの成果を得た。しかしながら、道德の授業で高められたはずの道德性が日常の児童の生活で生かされていないという課題が見られた。

そこで、道德的価値を実践力につなげ、よりよい人間関係を構築できる児童の育成を目指し、道德を教育活動の核に据え、他教科、領域との連携を図っていくこととした。道德の授業で培った価値を学校行事や日常生活に生かせるような教材作りや授業実践の研究をすすめ、外部講師を招き、問題解決的な学習の進め方を中心に、研究を推進していく。

2 本事業成果の検証方法（目標達成状況等把握のための方法）

- ・年 2 回の児童アンケートを実施し、意識の変容を検証する。
- ・授業実践や研修会での協議会の内容をもとに、研修の積み上げの足跡を明らかにしていく。

3 本事業の実施内容

（1）地域の特色を生かした道德教育の取組

県指定の研究課題「子どもをとらえ、よさを伸ばす『道德の時間』の在り方」について、外部講師を招いた計画的な研修の実施により、要となる「道德の時間」についての指導方法についての研究を行う。

本校の研究テーマ「互いを認め合い、よりよく生きようとする児童の育成」

〈取組の内容〉

ア 学校行事、他教科、領域との連携を図った道德の年間計画見直し

イ 問題解決的な学習に関する外部講師の招聘

ウ 本音で語り合える授業作りの工夫

① 葛藤場面のある教材選定

② 多面的な思考を促す切り返し発問の工夫

③ 思考の見える化を図るためのワークシートや心情メーターの活用

エ 各学年による研究授業の実施、成果や課題を明確にするための協議会の開催

4 本事業の実施経過

月	実施内容	関連する活動 ※記号の意味は表の下に記した。
4 ・ 5	○ 現職教育を実施 ・本年度の研究主題や研究内容、方向性について、推進会で話し合い、その内容を全職員で共通理解をした。 ・本年度の道德の授業づくりのポイントについて共通理解を図った。 ○ 第 1 回 柳沼良太先生を招いた校内研修 〈5 年 2 組 勝川翔太先生による模擬授業〉 ・資料名「カーテンの向こう」[B- (7) 思いやり] 〈研修〉 ・45 分でまとまる授業作りの方法や問題事を多面的に見られる様な板書	・30 分の休み時間 ハッピータイム (通年) ☐ ・読み聞かせ(1、2 年) ☐ ・1 年生を迎える会 ☐ ・修学旅行 ☐ ・ケータイスマホ安全 教室(6 年) ☐

	の工夫の仕方、道徳的価値の捉え方などについて、研修をした。 ○ 道徳年間計画を作成 7月実践に向けての別葉づくり（6年）	・林間学校（5年）な
6	○ 第1回 校内授業研究 〈2年1組 田中久美子先生による授業〉 ・資料名「一りん車」〔A－（9）友情、信頼〕 〈協議会〉 ・「自分だったらどうするか」と、自分事として捉えられるきっかけを授業のどの場面で考えさせるとより道徳的価値が深まるかを検討した。 ・教師の意図したねらいにせまれるよう、授業を進めながらの修正・組立の必要性を共通理解した。 ○ 道徳アンケートの実施（1回目） ○ モラロジー研究所 佐野氏との打ち合わせ（研究の実際について）	・遠足な ・プール開きな ・携帯、スマートフォンの使い方についての子育て講演会 （6年との単） ・学校保健委員会教 ・田植え（5年）単 ・芋の苗植え（2年）単
7	○ 第2回 校内授業研究 〈3年1組 榊田弘子先生による授業〉 ・資料名「花だん当番」〔D－（19）自然愛護〕 〈協議会〉 ・教材文の中に考えのもととなるキーワードがあり、そこを押さえる事が大切であること、そのために教師が事前に教材文をしっかりと読み込み、理解した上で案をたてることの重要性を確認した。 ・役割演技は、児童の本音を引き出すのに有効であることを確認した。 ○ 第3回 校内授業研究 〈6年2組 長田拓馬先生による授業〉 〈モラロジー研究所 佐野氏を招いた参観授業〉 ・資料名「メールの返信」〔B－（10）信頼・友情〕 〈協議会〉 ・板書の工夫と心情メーターの活用により、互いの考えが視覚的によく分かり、話し合いが深まることが分かった。今後も積極的に取り入れていくことを決めた。 ・学年に合ったワークシートの効果的な活用方法について、検討した。 〈佐野氏からのご指導〉 ・道徳的価値が今後の日常生活に生かされていくかどうかについては、成果を焦らず、何か行動をおこそう、何かをしようとする姿勢を大切にしていくことで、後の実践につながり、児童の成長につながっていくことを述べられた。	・運動会ブロック団結集会な ・教育相談教 ・花壇の花植え（3年）単 ・学活 「スマートフォンを使用する際のルール作り」（6年）単 ・学活（キャリア教育） 「小学生に携帯電話は必要か」（6年）単
8	○ 第2回 前田治先生を招いた校内研修（全職員） ・道徳の授業の作り方、評価についてなどの研修を受けた。登場人物の中で一番言動に変化がある人になりきって考える、つまり自己投影させることが、自分事として捉え、本音を語らせるのに有効であると教えていただいた。子どもたちに響く授業作り、子どもたちの心が揺さぶられたり動いたりする授業作りの大切さを共通理解した。	
9	○ 第4回 校内授業研究 〈2年2組 小島政嗣先生による授業〉 ・資料名「ゆきひょうのライナ」〔D－（17）生命の尊さ〕 〈協議会〉	・運動会な ・15分の話し合い活動 しっぴータイム

	・ Xチャートで授業を4つのカテゴリーに分け、付箋紙を貼り、分類して授業分析を行った。その中で、児童への声かけや指名のタイミングなど、どの子にも分かりやすく授業をするためのユニバーサルデザインの取り入れ方など、多くの授業技術を確認し合った。 ○ 第5回 校内授業研究 〈3年2組 田中佑典先生による授業〉 ・ 資料名「0点」[A-(2)正直] 〈協議会〉 ・ 主発問や切り返し発問について、案を立てる段階でよく考えられていても、授業の中でそれが十分生かされず、意見交流があまり活発にできないことが課題になった。ねらいに迫れるようキーワードやそこに近付く方法を柔軟に授業の中で考えていくことに重点をおくことを再確認した。	(9月～) コ
10	○ 第6回 校内授業研究 〈5年1組 佐々靖枝先生による授業〉 ・ 資料名「どうする？あかつき」[A-(6)真理の探究] 〈協議会〉 ・ 小グループでの話し合いや意見交流では、視点をはっきりさせ、相手の意見を傾聴できるとよい。本校の話し合い活動「しっぴータイム」での取組を生かしていくという方向性を決めた。 ○ 第7回 校内授業研究(学校訪問指定授業) ・ 資料名「6ねんせいのおにいさん」[B-(7)感謝] 〈協議会〉 ・ 自作資料のため、自分事として捉えやすい内容になっていた。教師がキーワードにとらわれすぎると児童と一問一答のやりとりになりやすいため、児童が自分なりの価値観を見つけていけるよう、それを大切にする授業作りを引き続き研究していくことを確認した。 〈ご指導・ご助言〉 ・ 自作資料については、作成する中で、話におちを作ってもよかったのではないかと。すべてのことを1つの価値へつなげたいという思いが強すぎると、そこにたどり着こうと気になってしまうため、いろんな価値を表出させる機会を逃してしまう。そうしないための切り返し発問をするとよいと指導助言を受けた。	・ 校外学習 な ・ 就学時健診、入学説明会(5年が付添) コ
11	○ 第3回 柳沼良太先生を招いた校内研修 〈4年1組 森隆平先生の授業〉 ・ 資料名「七宝の宝 梶常吉」 [A-(5)希望と勇気、努力と強い意志] 〈講義〉 ・ 新学習指導要領の目指すもの「主体的・対話的で深い学び」について、研修を受けた。また、子どもたちに身に付けさせたい力の中で、提示された思考力・判断力・表現力については、多面的・多角的に考える、多様な思考・考え方ができるように、切り返し発問ができるとよいことを教えていただいた。また、自己の生き方・社会の在り方を問い直すという視点からは、自分はこの教材で何を学ぶことができたのかを考えさせる機会を作ることの大切さを教えていただいた。資料の中に道徳的価値をしっかりと含ませることにより、十分にねらいが達成で	・ 学習発表会 コ な ・ 学校保健委員会 教 コ ・ 稲刈り(5年) 単 ・ 芋掘り(2年) 単

	きることを聞き、資料選択の重要性も改めて認識した。	
12		・児童集会 ☐ な ・教育相談 ☐ 教
1	○ 道徳アンケート実施（2回目） ○ 道徳授業公開（全クラス）	・合唱発表会 ☐ な ・ドリームマップ (4年) ☐ 単 ・二分の一成入式 (4年) ☐ 単 ・児童集会 ☐ な
2	○ 現職教育 ・本年度の成果と課題について ・来年度に向けて 道徳の評価について	・見守り隊感謝の会 (1～3年) ☐ コ ・ふれあい会（6年） ☐ コ ☐ な
3	○ 次年度に向けての研究計画立案	・卒業生を送る会 ☐ な ・卒業式（5、6年） ☐ コ ☐ な

※関連する活動について次のように記した。

- ・コミュニケーション能力を高める活動・・・ ☐ コ
- ・仲間との絆を深める活動・・・・・・・・・・ ☐ な
- ・単元との関連がある活動・・・・・・・・・・ ☐ 単
- ・教師の学習会、児童理解・・・・・・・・・・ ☐ 教

5 取組の成果と課題

〈道徳教育の抜本的改善・充実に係る成果の概要〉

(1) 外部講師による道徳研修

大学の先生を招聘し、研修会を行った。問題解決的な学習の進め方についてだけでなく、今後につながる授業の進め方や学びが深まるための授業作りのポイントなどを教えていただくことができた。また、道徳と他教科の連携についても、学ぶことができた。研修を重ねることで、本校の道徳の授業の進め方が確立していった。

(2) 教員の力量向上

授業後の研究協議会では、毎回、授業の中で良かった点と改善点を付箋紙に書き、協議会に臨んだ。指導案、当日の授業から4つの観点をその都度設け、Xチャートを使って分析を行った。何度か協議会を行ううちに、活発な意見交流が行えるようになり、授業を分析する力がついた。次の実践につなげる活動を積み重ねることで、道徳の授業力を確実につけていくことができた。

(3) 児童の道徳の授業における学びの向上

教材選定については、児童が身近に感じる出来事を取り上げ、さらに葛藤場面のある教材選定を基本とした。児童は、自分ならどうするか悩み、考えながら授業に参加できた。

テーマ発問については、児童が問題を自分事として置き換えて考えられるような発問の設定を基本とした。自分事として捉えることで、考えを素直に表現することができた。授業での切り返し発問については、部会で事前に予想したものに加え、多様な意見に対して柔軟に教師が切り返し発問を行っていった。児童は自分と向き合い、また、友達の意見を聞く中で、自分の考えを改めて確認したり見直したりすることができた。そして、その考えが変容したり深まったりすることを実感した。

思考の見える化を図った心情メーターの活用では、自分の考えが心情メーターのどの辺りにあるかを挙手やネームプレートで表した。自分の立場を自覚させると共に、黒板の心情メーターを見することで、友達の考えを知り、クラス全体で意見交流をしながら最善策を考えることができる有効手段となった。

ワークシートについては、授業の最初と最後で自分の考えが確認できるような方法を取り入れることにより、なぜそう思うのかという根拠がはっきりと認識でき、自分の考えや立場と向き合えるようになった。

〈調査から見られる成果〉

調査名	アンケート調査									
調査項目	1～4年 6項目、 5、6年 7項目									
回答項目	・道徳の時間に学んだことが、生活の中で生かされている。 ①そう思う ②どちらかと言えばそう思う ③あまり思わない ④思わない									
調査対象	種別	① 児童・生徒 2. 教職員 3. 保護者 4. その他 ()								
	学年等	1～6年 全児童								
調査時期	第1回（事業開始時）					第2回（事業終了時）				
	6月					1月				
回答結果 割合等	%	①	②	③	④		①	②	③	④
	1年	63.0	24.0	11.1	1.9	1年	62.5	30.3	3.6	3.6
	2年	47.0	22.4	22.4	8.2	2年	36.7	34.7	18.4	10.2
	3年	22.7	39.4	33.3	4.6	3年	35.4	36.9	23.1	4.6
	4年	28.0	31.6	31.6	8.8	4年	43.6	25.5	18.2	12.7
	5年	9.4	25.0	57.8	7.8	5年	18.8	35.9	43.7	1.6
	6年	32.5	24.3	32.4	10.8	6年	46.2	30.8	23.0	0
結果の考察	6月に比べ、1月のアンケート結果の方が「生かされていると思う、どちらかと言えばそう思う」と答えた児童の割合が高くなっている。具体的な場면을5、6年の児童に尋ねたところ、「友達との接し方や仲直りの仕方など友達関係の場面」「周りと考えが違うときに、けんかにならないように自分の意見を伝えるとき」「バスの中で高齢者に席を譲ろうか考えたとき」「何か行動をするときに自分のことだけでなく、周りの人の事を考えて行動をしようと考えるとき」「良いか悪いか自分で判断する場面」などが挙げられた。特に6年生においては、身近な問題となりやすい携帯やスマートフォンに関する取組を他教科・領域、家庭と道徳を関連づけて行ったため、普段の生活でそれらに関するトラブルが起こりそうなとき、そうならないように話をしたり、譲り合ったりしながら解決を図ることができている場面が見られるようになってきた。しかしながら、全校で考えると「あまり思わない」と思う児童の割合が平均20%以上であることも見逃せない。 今後は、より道徳の時間の学びが日常に生かされるよう、他教科・領域、家庭との連携を引き続き図り、授業の工夫をしていきたい。									

〈その他の成果〉

授業案をたてる段階で部会を開き、ねらいや発問について話し合って案を練っていった。また、教材選定について相談したり、読み語りで使用する場面絵やセンテンスカードなどを作成したりした。研究授業での役割も部会で相談し、授業後の協議会も部会のメンバーを中心に進めた。多くの研究授業を行うことで、道徳の授業の作り方や進め方の共通理解を図ることができ、自信をもって授業に臨むことができるようになった。

〈今後の課題〉

道徳の授業を組み立てる際に、あれもこれもと教師の欲が出て、当初の教師の思い、高めたい価値がぶれることがある。そうならないように、軸をはっきりさせ、その中で柔軟に対応していきたい。

現在自己の振り返りができるワークシートを活用しているが、これらを評価にどうつなげていくかについては、教師間の共通理解が必要である。

